

私たち千代田図書館コンシェルジュは、図書館の総合案内と千代田区の街案内をしています。街案内では、近隣の新聞書店と古書店、文化施設、イベントやおすすめスポットなど、地域に関する情報を幅広くご案内しています。また、私たちが自ら足を運んで取材した情報の発信もしています。ここでは、私たちがいままでに見たり聞いたり調べたりした千代田区にゆかりのある情報から、皆さまのお役に立ちそうなことをご紹介します。これからも千代田図書館で皆さまのお越しをお待ちしています！

千代田図書館コンシェルジュ（対応時間 平日 10:00~20:00 土曜 10:00~19:00 日曜・祝日 10:00~17:00）

特集：早口言葉でリフレッシュ！



先日、神田神保町の老舗和菓子店で買い求めた和菓子の袋に、こんな一文が載っているのを見つけました。「神田鍛冶町角の乾物屋で買った勝栗固くて噛めない」。ふと声に出して読んでみると、「か」という言葉が畳みかけるように登場する「早口言葉」だと気づきました。マスクを日常的に着用するようになり約 1 年半。口をあまり動かさなくなっているためか、早口言葉がより面白く、新鮮に感じられました。そこで今回は、「声に出すと面白い言葉」を中心に特集します。言葉遊びを通してリフレッシュしてみませんか？

日本語の言葉遊びについて知る

日本語には同音異義語がたくさんあることから、「日本語そのものが、だじゃれのかたまりである」という考え方があるそうです。言葉遊びのしくみや、平安時代から現代までの歴史について知る資料を紹介します。

- ・『日本語あそび学』稲葉 茂勝/著 今人舎〈資料 ID:1000468775〉
- ・『金田一先生と日本語を学ぼう 4』金田一 秀穂/監修 岩崎書店〈資料 ID:1000248334〉
- ・『言語遊戯の系譜』綿谷 雪/著 青蛙房〈資料 ID:1102305594〉



声に出して読む

声に出して読むために早口言葉や名作をまとめているもの、音読のコツや解説のある資料を紹介します。

- ・『お江戸はやくちことば』杉山 亮/文 河合楽器製作所・出版事業部〈資料 ID:102858222〉
- ・『長息長生き丹田呼吸法で読む名作』齋藤 孝/著 岩崎書店〈資料 ID:1000688927〉
- ・『声の文化を楽しむ』好本 恵/著 日外アソシエーツ〈資料 ID:1000741064〉
- ・『認知症予防におすすめ図書館利用術 2』結城 俊也/著 日外アソシエーツ〈資料 ID:1000620235〉



コンシェルジュのおすすめ！ 神田鍛冶町、角の乾物屋さんのお話と銘菓「神田かの字」

「神田鍛冶町角の～」の早口言葉について、千代田区・神田公園地区連合町会のサイト「大好き神田」のなかで、モデルは実は当店と仰る方が「当事者としては一寸複雑な気持ちで、子供心にも忸怩たるものがありました」と明かしています。「乾物ですから、干し固めて硬いのが身上」というのは納得ですね。そして「神田の商人の昔の事柄も語りつがれ郷愁を呼び覚ますことで、下町神田の良き伝統と文化が引き継がれて行くのだと思います」とも語っています。

そんな神田の早口言葉が和菓子の個装にデザインされているのは、神保町交差点近くの老舗和菓子店「亀澤堂」の銘菓「神田かの字」です。薄い皮に餡を挟んだどらやきのような和菓子で、栗餡と大納言の2種類あります。

亀澤堂（千代田区神田神保町 1-12-1）…「神田かの字」のほか、どらやきや添加物不使用の豆大福もおすすめ。

滑舌トレーニングや発声法について知る

呼吸法や滑舌、発声法のトレーニングを行うことは、話すことだけでなく、食べたり飲んだりする嚥下機能^{えんげ}の維持にもつながるそうです。口周りの筋肉をほぐしつつ、声の出し方や滑舌を練習してみましょう。

- ・『あなたの「声」と「滑舌」がどんどんよくなる本』藤野 良孝/著 青春出版社〈資料 ID:1000777878〉
- ・『発表・スピーチに自信がつく!魔法の話し方トレーニング 1』白石 謙二/著 汐文社〈資料 ID:1080412594〉



<豆知識> 日本語の音の響きを楽しむ「水馬赤いな。ア、イ、ウ、エ、オ。」

通称「あめんぼの歌」「あいうえおのうた」などとも呼ばれている詩「五十音」は、日本歌曲「この道」「からたちの花」などを作詩した北原白秋によるもので、“日本語の五十音”を題材にしためずらしい詩です。白秋はこの作品について「これは単に語呂を合わせるつもりで試みたのではない。各行の音の本質を歌いながら覚えさせたいがためである」といっています。各行の音の響きを楽しめるこの詩は、役者やアナウンサーの滑舌や発声トレーニングにも用いられています。

<参考文献>『日本語を味わう名詩入門 7』あすなろ書房〈資料 ID:1102179262〉



伝統芸能の話芸を楽しむ



歌舞伎十八番の一つである演目「外郎売^{ういらうり}」には、非常に長い早口のせりふが登場します。これが現在の早口言葉のはじまりだという説もあるそうです。歌舞伎のほか、落語や講談など磨かれた話芸を気軽に楽しめる区内のスポットやインターネット配信などを紹介します。

- ・奥野かるた店（千代田区神田神保町 2-26）
今年で創業 100 年を迎える、日本唯一のカルタ専門店。店舗 2 階で月に 1 回「神保町かるた亭」を開催。
- ・らくごカフェ（千代田区神田神保町 2-3 神田古書センター 5F）
店内に落語の高座を常設しているカフェ。落語会は平日夜間、土・日・祝日は昼夜に随時開催。
- ・神田連雀亭^{れんじやくてい}（千代田区神田須田町 1-17 加藤ビル 2F）
二ツ目の落語家・講談師専用の定席^{じょうせき}。公演配信「神田連雀亭オンライン寄席」（有料）も行う。
- ・オンライン落語「志ん輔と仲間たち」公式サイト（<https://shinsukenakama.com/>）
古今亭志ん輔師匠の自宅稽古場から月に 1 回、落語会を有料配信。毎日新聞社主催。
- ・国立劇場 / 国立演芸場（千代田区隼町 4-1）
国立劇場では歌舞伎、国立演芸場では落語や講談などを上演する。



<豆知識> さえずりを真似る!? 鳥の「聞きなし」

ウグイスのさえずりを「法、法華経^{ほう、ほけきょう}」と例えるのを耳にしたことはないでしょうか?このような「鳥の鳴き声を人の言葉に置き換えたもの」を「聞きなし」と呼ぶそうです。戦前の鳥類研究者、川口孫治郎（1873～1937 年）が、昔話や民間に伝わる聞きなしを自著『飛騨の鳥』で紹介したのがはじまりと言われ、民俗学者の柳田国男が日本各地の聞きなしを積極的に収集しました。その柳田が創立に関わった日本野鳥の会の雑誌『野鳥』には、多くの聞きなしが紹介されていたそうで、バードウォッチャーが野鳥の声をおぼえる方法として広まったようです。

さまざまな鳥の聞きなしのなかには、早口言葉のように面白いものもあります。

散歩の時など、鳥のさえずりに耳をかたむけてみませんか?

- ・ツバメ「ツチクテ ムシクテ クチシーブイ」（土喰って虫喰って口渋い）/春・住宅地
- ・ホトトギス「トッテ カケタカ」（捕ってかけたか）など/夏・森林
- ・キジバト「デデコクエ デデコクエ」（父親粉食え 父親粉食え）/通年・住宅地



<参考文献>『鳴き声から調べる野鳥図鑑』松田 道生/文・音声 文一総合出版〈資料 ID:1000544161〉

『日本の心を伝える年中行事事典』野本 寛一/編 岩崎書店〈資料 ID:1000425452〉

『野草雑記・野鳥雑記』柳田 国男/著 岩波書店〈資料 ID:1101101036〉